

# ふかまちのまど

第一九六号 一〇年九月一日  
発行元 深町連合町内会  
連絡先 六三三三八八二

## 連合町内会活動報告

### 盆行事（八月十五日）

連合町内会  
会長 中村 純

昨年は朝から小雨、今年は毎日猛暑、朝八時から役員一同汗だくで櫓を組み、その他の準備をしました。  
定刻の十九時三十分、新仏（九名）に黙祷を捧げ、太鼓踊りに続き盆踊りに入りました。  
今年は都合により盆踊りの歌は口説きではなくテープでしたが、盆踊りは始めのうちには輪が小さかったが、だんだん参加者が増し昨年より少し多かったですと思いました。最後のビンゴゲームには三三〇名の参加がありました。  
役員の皆様、壮青会、女性会の皆様最後までご協力大変有り難うございました。



### やっさ踊りに参加して

やっさ踊り担当 天木雅之

第三十五回三原やっさ祭りが八月六日〜八日までの三日間、J R三原駅前を主会場に、一〇七チーム総勢約八〇〇〇人の踊り手が「ヤッサ、ヤッサ」の掛け声に合わせて元気よく踊りました。七日（土）のやっさ踊りには、今年度もサンライズ大池・港町さんと合同で出場しました。深町連合町内会からは、男・女・子供を合わせて三十九名が参加しました。

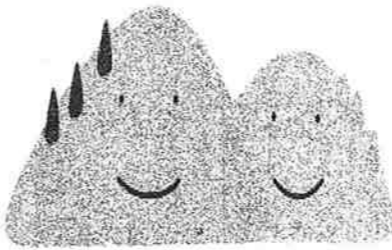


残念ながら、入賞はなりませんでした。浴道の熱い声援で後押しをしていただき、連日の猛暑にも負けず踊り手は精一杯頑張りました。いい汗をかきました。

### 草刈りのお礼

上組町内会  
会長 中村 純

猛暑が続く八月一日、午前八時より上組公民館横の除草作業を行いました。  
今年の春に、元市会議員村上徹郎様より桜の苗木十本を頂いて、植樹していたが生い茂り、何処に桜があるのか分からない状態でしたが、きれいになりました。



▲ 今年は異状に暑い日が続きますが、参加された皆様本当に有り難うございました。

### 上組町内会だより

「ふかまちのまど」 ホームページのアドレスは  
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

### 小林ハツ子さん

（深町上組西側講）

上寿（100歳）

おめでとうございます

※三原市内の100歳以上の人  
（平成22年7月31日現在）  
59人（男10人、女49人）



▲ 今年は参加者も十四名増え、一層元氣も出てにぎやかになったように思います。

▲ 為清敏治さんには、段取りから色々お世話いただきました。大変ありがとうございました。又、参加していただきました皆様、暑い中大変ご苦勞様でした。来年も是非参加させていただきます。▲

### 深小だより

#### 人材育成

深小学校長 山本 恵司

▲ 論語の雍也篇に『これを知る者は、これを好む者にしかず』という言葉があります。

▲ 「ただ知っているというだけでは、それが好きだという者にはかなわない。」ということですが、これは、さまざまの場合にあてはまる言葉ではないでしょうか。

▲ 例えば、何をするにしても、理解するということは必要です。しかし、それだけでは行動になりません。仮に行動になったとしても積極性は伴いません。好きになってこそ、積極性が出てきます。つまり、「好きこそものの上手なれ」ではないでしょうか。

▲ 仕事について考えてみましよう。教えられ、与えられ、知ら知っていても、いやいや行動したのでは効率も悪く結果もよくありません。

▲ 子育ても同様です。いくら覚えなさいと言っても、なかなか覚えませんが、自分の好きなことは、覚えるなど言っても覚えられないものです。だから、教えるだけでなく好きになるように仕向けることが肝心だと思います。



▲ さて、この言葉には、実はまだ先があります。『これを好む者は、これを楽しむ者にしかず』という言葉です。

▲ 「好きだというだけでは、それを楽しんでいる者にはかなわない。」というのです。「好きだ」ということと「楽しむ」ということを比較してみると、前者は感情的なものであって、熱心ではあっても、そこに浸りきる心境ではありません。一方、後者になると、本当に心から、損得を離れ、結果がどうであろうとも、ゆとりをもってやっていると、このような状態で、こうなれば最高です。

▲ 好きだからやっているうちに、やがてそれを楽しむようになる。そうなれば本物です。仕事だけでなく、学校教育や家庭教育の場で、子どもをここまで誘導できればすばらしいのですが、なかなか上手いかなのが現実です。▲

### 深町各種団体九月行事予定

- ◆ 連合町内会 二十日
- ▼ 深町敬老会
- ◆ 子ども会
- ▼ 三原市子ども会球技大会 二十二日
- ◆ 小学校・幼稚園
- ▼ 始業式・学区児童会 一日
- ▼ 参観日・学級懇談会 三日
- ▼ 修学旅行 九〜十日
- ▼ 水辺教室 十三日
- ▼ 放課後子ども教室 十五日
- ▼ 薬物乱用防止教室 十六日
- ▼ 避難訓練 十七日
- ▼ 社会見学・祖父母参観日 二四日
- ▼ クラブ活動・お楽しみ会 二九日
- ◆ サンライズ大池 十八日
- ▼ 敬老祝賀会
- ◆ 如水館中学・高校
- ▼ 高校オープンスクール 五日
- ▼ 中・高合唱コンクール 十七日
- ▼ 文化祭 十九日



### 展望席

▲ 月々に月見る月は多けれど、月見る月はこの月の月。小学生の頃、深町上組の子ども十数人が、上組の小高い丘に上をり、中秋の名月の月見をしたことがあります。このとき、引率された地元元石井良雄先生が、夜空の星座について色々教えて下さいました。大空には果てしない夢や謎が広がります。

▲ 小惑星探査機「はやぶさ」が七年間、六十億キロの旅を終えて、今年六月に地球へ帰還しました。この間、度重なる故障などの危機を乗り越えたといえます。「技術的に非常に大きな成果」と称賛され、早速、後継機の開発予算について、大幅に増額されるようです。

▲ 長期間の任務を果たした「はやぶさ」に比べ、最近の総理大臣は人気も任期も一年そこそこで、少し難局に直面すると突然辞任して国民をガツカリさせていると思えます。そして、少し意見が違ったり、気に入らないとすぐに閣外や党外へ飛び出す政治家が多いのも気にかかります。色々理由はあるようですが、なぜ自分が愛する内閣や政党をもっと力強く支えて良くしようと思わないのか？素朴な疑問が生じます。

▲ 国民を代表される方には、どんな厳しい状況にもじっと耐えて、苦勞して日本の将来を担っていき、その手本となり、真剣で真摯な姿と確かな実行を期待しています。そして国民とともに中秋の名月のように清く美しく輝いて頂きたいと思えます。

消防団 だより

体力錬成ソフトボール  
大会で初優勝!



三原市消防団深町分団  
分団長 藤川敏和

八月一日(日)、三原市消防団夏期訓練「体力錬成ソフトボール大会」が開催されました。試合は、一、二回戦、準決勝と勝ち進み、決勝戦では本郷分団を七対六で破り、悲願の初優勝を飾り、優勝旗を手にする事が出来ました。

猛暑の中、好守、好打に珍プレーありの熱戦を通して応援の団員と選手が一丸となって掴んだ優勝でした。

若手、中堅、ベテランの団員が、より団結して、団活動に当たります。今後とも、消防団活動にご理解とご協力をお願いします。

フシロだより

海水浴で元氣いっぱい

子ども会会長 松本雅志

今年度も子ども会行事の一つ海水浴を七月二十五日に行い、須波海水浴場に総勢六十一名参加しました。

数日前までの雨空はなくなり、海水の冷たさも気持ちよいほどの暑さの中、子どもたちはカキ氷やビンゴゲームで盛り上がり、元氣いっぱい泳いで楽しみました。

皆様の御協力のお蔭で大きなケガも無く過ごせました。有り難うございました。



さて、ソフトボールチームは、例年お盆に行われる防犯球技大会が十月に変更になった為、来月九月十二日(日)の三原市子ども会球技大会(三菱和田沖グランド)に向けて、引き続き(土)(日)の練習を頑張っています。興味のある子どもたち、保護者の皆様方、見学がてらに遊びに来てみて下さい。いつでも歓迎致しますので、よろしくお願致します。

深町子どもを守る会

子どもを  
みんなで守りましょう



深小の子どもは  
○午後四時二十分頃  
下校します。  
※日によって、異なることがあります。

○近くで、遠くで、みんなで  
見守りましょう。

○あいさつ、  
声かけをしましょう。

短歌・俳句・詩

中組 仲峠謙 竹内ひろみつ

街路樹の木権咲くのを目の端に  
車走らす暑き午後の日

この夏が特に暑きか老ゆたのか  
考えながら猫と伸び居る



妻病む日命ぎりぎり瀬戸際の  
われ気張らねばと身体動かす

フシロだより  
(知的障害者授産施設)

苗作りも着々と準備



今年の夏もホント、暑かったです。少しもゆるまない暑さに対抗して我々の体がどこまで持つか、そんな暑い夏でした。ハウスの作業も度々の休憩を取りながら、夏を乗り切りま

暑い中での種蒔き、ポット入れ、土入れ等、着々と準備をしています。野菜の苗はハクサイ、ブロッコリー、キャベツ等。花苗はパンジー、プリムラ、葉ポタンなどで、十月頃には販売できると思っています。私たちがハウスの中が花いっぱいになるのを楽しみに待っています。

認知症サポーター  
養成講座のご案内

三原市東部地域包括支援センター どりいむ

何故今認知症を知らないといけないか? 認知症は六五歳以上の九人に一人、八五歳以上の四人に一人がかかるといわれるように、誰でもなりうる病気です。「認知症になっても住み慣れた地域に住みたい」、「多くの方はそう思っている」と思っています。認知症になっても地域で普通に生活できる街(三原市)づくり。そのためにはまず、認知症の事をよく知ることが大切です。

私も三原市東部地域包括支援センターどりいむでは、地域の皆さんに、「認知症とはどういうものか?あるいは認知症の予防や認知症の方に対しての関わり方など」を理解していただきたいと思います。「認知症サポーター養成講座」を開催しています。一時間から一時間半程度の講座です。

町内会、老人会、女性会等で、「認知症についての話が聞きたい」とのご希望がありました時は、一報ください。ご要望があれば、センターの職員が出向いて講座を開かせていただきます。よろしくお願いたします。

お問い合わせ・講座開催依頼  
三原市東部地域包括支援センター どりいむ  
電話 611-4410  
三原市高齢者福祉課地域福祉係  
電話 671-6055



※「認知症サポーター養成講座」を受けた人が「認知症サポーター」です。特に認知症サポーターには何かを特別にやってもらうものはありません。認知症を正しく理解してもらい、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になってもらいます。そのうえで、自分のできる範囲で活動できればいいのです。たとえば、友人や家族にその知識を伝える、認知症になった人や家族の気持ちを理解するよう努める、隣人あるいは商店・交通機関等、まちで働く人として、できる範囲で手助けをするなど活動内容はそれぞれです。なお、認知症サポーターには「目印」としてブレスレット(オレンジリング)をつけてもらいます。この「オレンジリング」が連携の「印」になるようなまちは目指します。

農業と陶芸

深町阿弥陀平 陶芸家 丹花 義晴

九月十日の深町は、稲刈りのシーズンで、力強い、深町の米は、粒が揃い、水気を含み、炊飯に最適です。秋の気候は、おかげさまで、年々、農業の発展が、地域の活性化に繋がっています。私には、農業と陶芸の両方があります。農業は、毎年の稲刈り、収穫、乾燥、選別、という大変な作業があります。陶芸は、粘土を練って、成形、乾燥、焼成という作業があります。農業と陶芸、どちらも、一生懸命に取り組んでいます。



私は、陶器を作っていました。十数年の経験が、私には、陶芸は、生活の一部です。農業も、生活の一部です。農業と陶芸、どちらも、一生懸命に取り組んでいます。農業は、毎年の稲刈り、収穫、乾燥、選別、という大変な作業があります。陶芸は、粘土を練って、成形、乾燥、焼成という作業があります。農業と陶芸、どちらも、一生懸命に取り組んでいます。